

事例番号:320034

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 30 週 0 日 妊婦健診で血圧 161/97mmHg

妊娠 30 週 1 日 妊婦健診で血圧 171/105mmHg

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 30 週 4 日

8:30 頃 腹痛あり、性器出血あり

9:45 入院、血圧 170/104mmHg

4) 分娩経過

妊娠 30 週 4 日

9:50 腹部板状硬あり、中等量以上の暗赤色の性器出血あり、超音波断層法で胎盤内血腫、胎児心拍数 80 拍/分台の徐脈を確認

10:00- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線 70 拍/分台、基線細変動消失を認める

10:52 重症妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離の診断で帝王切開により児娩出、手術時に多量の凝血塊あり

胎児付属物所見 約 50%の胎盤剥離所見あり

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:30 週 4 日

(2) 出生時体重:1215g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.767、PCO₂ 93.4mmHg、PO₂ 20.0mmHg、

HCO₃⁻ 12.7mmol/L、BE -29.7mmol/L

- (4) アプガースコア: 生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点
- (5) 新生児蘇生: 人工呼吸(マスク・チューブ)、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与
- (6) 診断等:
出生当日 重症新生児仮死
- (7) 頭部画像所見:
生後 2 日 頭部超音波断層法で両側側脳室、第 3 脳室の著明な出血、拡大、脳室内出血 3 度を確認
生後 16 日 頭部超音波断層法で脳室内出血後水頭症を確認
生後 73 日 頭部 CT で著明な脳室拡大・白質容量の低下・小脳の萎縮を認める

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師: 産科医 2 名、小児科医 3 名、麻酔科医 1 名
看護スタッフ: 助産師 2 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症、およびそれに引き続いて発症した脳室内出血・出血後水頭症であると考えられる。
- (2) 妊娠高血圧症候群が常位胎盤早期剥離の関連因子である可能性がある。
- (3) 常位胎盤早期剥離の発症時期は特定できないが、妊娠 30 週 4 日の 8 時 30 分頃またはその少し前の可能性があると考えられる。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

- (1) 紹介元分娩機関における妊娠中の管理は一般的である。
- (2) 妊娠 30 週 0 日の妊婦健診で血圧上昇を認め、胎児発育に異常を疑い、翌日の再診を指示したこと、妊娠 30 週 1 日にも血圧上昇を認めたため、「子宮内

胎児発育遅延」、高血圧症の診断で当該分娩機関へ紹介したことは一般的である。

- (3) 当該分娩機関での受診時の対応(血圧 130/80mmHg を確認、蛋白尿(-)を確認、超音波断層法で胎児推定体重の確認、ノンストレス実施)、および自宅安静、家庭血圧測定を指示し、1 週間後に再診としたことは、いずれも一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 30 週 4 日、妊産婦からの腹痛・性器出血を主訴とした電話連絡に対して来院を指示したことは一般的である。
- (2) 受診後の対応(血圧測定、腹部触診、内診、性器出血の確認、超音波断層法の施行、分娩監視装置装着、硫酸マグネシウム水和物 ブドウ糖注射液投与)は一般的である。
- (3) 妊産婦の症状(腹部板状硬、性器出血、高血圧)および超音波断層法所見(胎盤内血腫、胎児徐脈)から重症妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離と診断し、帝王切開を決定したことは一般的である。
- (4) 帝王切開決定から 62 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析(「原因分析に係る質問事項および回答書」による)を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(酸素投与、バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液投与、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項
なし。
- 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項
なし。
- 3) わが国における産科医療について検討すべき事項
 - (1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。